

担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい  
投信 なるほど  
リップバー

REFINITIV. リフィニティブ



## 6月末の純資産総額

## 残高1兆円超の巨大投信も登場

国内で販売されている投資信託の純資産総額が、過去最高の残高です。2021年6月末時点で、MMF(マネー・マネジメント・ファンド)を除いたオープン投信の残高は、142.2兆円でした。昨年12月末の125兆円から17.2兆円の増加で、8カ月連続で最高額を更新しています。6月末の株式オープン投信の残高は、141.6兆円でした。こちらも8カ月連続で残高の最高額を更新しています=グラフ。一

方、公社債投信は、昨年末に比べて純資産総額が減少しています。

個別の投信で純資産が1兆円を超えている、いわゆる「1兆円ファンド」は、3銘柄に増えました=表。

5月末までは「グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)」だけでした。昨年7月に設定したこの投信は、今年1月末の時点では残高3位。純資産総額が9252億円でし

## ■純資産の総額が1兆円を超えている投信

投信の名称	純資産総額(兆円)
グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)(アセットマネジメントOne)	1.13
アライアンス・パーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	1.05
グローバル・プロスペクティブ・ファンド(日興)	1.04

[上場投資信託(ETF)を除く。2021年6月末時点]

た。2月末に9966億円に増やして1位に浮上。3月末に1兆円の大台に達した後、5カ月連続でトップを維持しています。

20年12月まで21カ月連続で残高トップだった「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)」は、今年1月に「グローバル・プロスペクティブ・ファンド(日興)」に1位の座を譲り、6月末時点では残高4位です。

純資産総額が増える要因は二つです。一つは基準価額の上昇。もう一つは投資家の購入による口数の増加です。純資産総額は、この二つの掛け算です。

投信に組み込まれている資産が値上がりすれば、基準価額が上昇し、純資産は増加し

ます。また、その投信を投資家が新たな資金で購入すれば、総口数が増え、こちらも純資産の増加につながります。定期的にお伝えしている投信の資金動向は口数の増減にあたり、純資産残高に影響を与えるわけです。

ワクチン接種が広がり、経済活動の回復期待が膨らんでいるため、株式や外貨建て証券などが値上がりしました。その結果、投信の運用資産も膨らみ、基準価額を押し上げました。また、将来の生活資金準備や、投資への高い関心によって、投信に個人投資家の資金が集まっています。基準価額の上昇と投資家の資金流入が両輪となって、投信市場全体の純資産総額の増加傾向が続いています。

## 株式オープン投信の残高は過去最高を更新中

国内で販売されている公募株式オープン投信の純資産総額の毎月末の残高。上場投資信託(ETF)を含む

